

RETAILER ACADEMY NEWS

FEB 2017 | Bentley Motors Japan



日本限定12台のコンチネンタルGT V8 Sが誕生 Mooncloud Edition by Mulliner

ベントレー モーターズ ジャパンは2月15日、都内で「ベントレー マリナープレゼンテーション」および「コンチネンタルGT V8 S Mooncloud Edition 発表会」を開催しました。

発表会では、ベントレー モーターズ ジャパンが近年マリナーの手掛けた特別限定モデルなどを紹介した後、コンチネンタルGT V8 S Mooncloud Editionをお披露目。このモデルは、リテーラーの発案をもとにベントレー モーターズ ジャパンがマリナーとともに形にしたものです。日本市場のみ12台限定で、価格は24,100,000円(税込)。日本の「月夜に映えるクルマ」をコンセプトとし、クーペには設定のなかったデュオトーンを採用。「夜空」をONYX(ブラック)で、「月光」をMoonbeam(シルバー)でそれぞれ表現しました。内装はペルーガハイドとピアノブラックパネルが基調のシックな装いながら、アームレスト下の収納ボックスにマリナーが得意とするヒドゥン・デライトを採用したり、Klein Blueのアクセントを随所



に配することでインテリアを引き締めています。さらに、フェイスパネルのジオメトリック模様でMooncloudを表現。本物の真珠貝を使うことで圧倒的なラグジュアリー感を演出しています。

会場には「1950年製 Mk VI Sports Saloon by H.J. Mulliner」や「1960年製 S2 Continental Sports Saloon by H.J. Mulliner」を展示。いずれもマリナーの代表作として語り継がれている名車で、Mooncloud Editionの発表に華を添えました。さらに、マリナーが開発した新素材「ストーンベニア」のサンプルをはじめ、ウッドパネルやカラーサンプルなども会場に展示し、マリナーを深く理解してもらう演出が行われました。

クルー本社から マリナーのスタッフが来日

英国ベントレー モーターズからはこの日のために、マリナーのヘッド・オブ・コマーシャルのトレーシー・クランプ氏と、同じくマリナーのビスポーク・限定車 プロダクトマネージャーのジェイミー・スミス氏が来日。マリナーに関するプレゼンテーションを行いました。

クランプ氏はまず、1559年に創業し、1760年に大英帝国郵便局(ロイヤルメール)から馬車の製造と整備を依頼されたことで著名になったというマリナー草創期のエピソードを紹介。次に19世紀後半の自動車産業への進出とH.J.マリナー株式会社の成り立ち、ベントレーとの出会いとその後のビジネスといったマリナーの歴史について説明を加え、お客様ひとりひとりの要望に対し、確かなハンドメイド技術で応えてきたマリナーの魂が、16世紀の創業以来、変わらずに現代にも受け継がれていることを強調しました。

続いてプレゼンテーションを行ったスミス氏は、近年マリナーが手掛けたビスポークについて解説。ミューザンヌSpeedの他ブランドとのコラボレーション例やベンティガ フライフィッシング、異なる23種類のウッドパネルを組み合わせるRoque Bentaygaの山々を描いたベンティガのフェイスパネルといった近年のマリナーのプロダクトに加え、新しい素材への挑戦やヒドゥン・デライトの例などについても説明しました。



ヘッド・オブ・コマーシャルの
トレーシー・クランプ氏

ビスポーク・限定車
プロダクトマネージャーの
ジェイミー・スミス氏





RANGE ROVER

新たなグレード追加と通信機能を初導入

ジ ャガー・ランドローバー・ジャパンはラグジュアリーSUV「レンジローバー」の2017年モデルの受注を開始しています。同車はすでに充実したラインアップを展開していますが、2017年モデルではさらに2種類のグレードを追加。さらに全グレードに標準装備される最新インフォテインメント・システムの「InControl Touch Pro」には、オプションでランドローバー初となる通信機能を追加することもできます。

ディーゼルエンジンモデルを追加

2017年モデルでは新たにディーゼルエンジン搭載モデルが追加されました。3.0リッター V6 ターボチャージド・ディーゼル・エンジンは、最高出力258ps、最大トルク600Nmを発揮。0-100km/h加速7.9秒の実力を備えています。このエンジンは「VOGUE」と「AUTOBIOGRAPHY」の2種類のグレードに設定されます。

SVAutobiography DYNAMICを追加

ジャガー・ランドローバー両ブランドのハイパフォーマンス・モデル、ビスポークオーダー、数量限定の高級特別限定モデルなどの開発や製造を担当するのが、スペシャル・ビークル・オペレーションズ（SVO）です。そのSVOが手がけた新たなグレードが「SVAutobiography DYNAMIC」として追加されました。シリーズ最強スペックを誇る最高出力550ps、最大トルク680Nmの5.0リッター V8スーパーチャージド・エンジンを搭載し、ラグジュアリーとパフォーマンスを両立させています。

エクステリアでは、標準ホイールベースのボディにダークカラー仕上げのフロントグリル、SVOサイドベントなどを装備。レンジローバー初のブレンボ・レッドキャリパーも装備しています。足回りでは、独自のチューニングによりパフォーマンスとハンドリングを最適化。さら

に標準モデルから車高を8mm低く設定し、ダイナミックなスタイリングと俊敏かつ軽快なドライビングをもたらしています。

インテリアでは、4色から選べるダイヤモンド・キルテッド・ステッチを施したセミアニリン・レザーシート、アルマイト仕上げのブライトメタル・パドルシフト、ノール加飾が施されたスイッチ類などにより、個性的で洗練された空間に仕上がっています。

インストルメントパネルには液晶画面を採用

フルスクリーン・ナビゲーションなどの情報をメーター内に表示できる12.3インチTFT液晶のバーチャルインストルメントパネルと、10.2インチのタッチスクリーンを装備した最新インフォテインメント・システム「InControl Touch Pro」を全グレードに標準装備しています。

通信機能をオプション設定

さらに「InControl Touch Pro」には、ランドローバーでは初となる通信機能をオプションで追加できます。例えば、ロードサイドアシスタンスが必要な場合や乗員の急病時には、車内上部のボタンを押すことでオペレーターと会話ができます。また、アプリを介した車両位置情報やトリップデータ、ドア/ウィンドウの開閉状況の確認などが行えます。さらにオプションの「InControl Connect Pro」を選択すれば、アプリを介したドアロック、エアコン、シート、非常時のクラクションおよびライト点滅の遠隔操作が行えたり、車内にWi-Fi環境をつくることができます。

先進的な安全装備も用意

ブラインド・スポット・アシストなどの先進安全装備を、パッケージオプション（ドライブプロバック）として用意しています。

ボディカラーを追加

SVOが手掛けるグレードの「SVAutobiography DYNAMIC」と「SVAutobiography」には、新たにSVOウルトラメタリック・プレミアムカラーおよびSVOスペシャル・エフェクトカラーを導入。既存のボディカラーに加え、新たにグロス仕上げまたはサテン（マット）仕上げを施した19色からの選択が可能です。



SVAutobiography DYNAMICでは、ダイヤモンド・キルテッド・ステッチを施したセミアニリン・レザーシートと、各部に施されたレッドのキーラインが、個性を鮮やかに演出



コネクティビティと利便性を高める通信機能をオプションで設定

VOGUE (3.0リッター V6スーパーチャージド+8速AT、340PS・450Nm)：
VOGUE (3.0リッター V6スーパーチャージド+8速AT、380PS・450Nm)：
VOGUE (3.0リッター V6ターボチャージドディーゼル+8速AT、258PS・600Nm)：
VOGUE LONG WHEELBASE
(3.0リッター V6スーパーチャージド+8速AT、380PS・450Nm)：
VOGUE (5.0リッター V8スーパーチャージド+8速AT、510PS・625Nm)：

13,770,000円
14,900,000円
14,200,000円

15,540,000円
16,570,000円

AUTOBIOGRAPHY (3.0リッター V6ターボチャージドディーゼル+8速AT、258PS・600Nm)： **16,760,000円**
AUTOBIOGRAPHY (5.0リッター V8スーパーチャージド+8速AT、510PS・625Nm)： 18,660,000円
AUTOBIOGRAPHY LONG WHEELBASE
(5.0リッター V8スーパーチャージド+8速AT、510PS・625Nm)： 19,620,000円
SVAutobiography DYNAMIC
(5.0リッター V8スーパーチャージド+8速AT、550PS・680Nm)： **24,050,000円**
SVAutobiography (5.0リッター V8スーパーチャージド+8速AT、550PS・680Nm)： 29,440,000円

MASERATI Quattroporte

フェイスリフトに合わせて装備と機能を拡充

左：「クアトロポルテ SQ4」グランルッソ
右：「クアトロポルテ GTS」グランスポーツ

マセラティ・ジャパンは、フラッグシップモデル「クアトロポルテ」にフェイスリフトを施した新型モデルを2017年1月16日に発表・発売しました。

エクステリア

エクステリアでは、フロントグリルおよびフロント/リアのバンパー形状を変更しています。新しいフロントグリルには電動調整式エア・シャッターが設けられ、エンジン温度の最適な制御、車両の空気抵抗の低減などに寄与しています。

インテリア

マルチタッチ機能を備えた8.4インチ・タッチコントロール式高解像度ディスプレイと、センターコンソールのロータリー・コントロー

ルを備えた新しいインフォテインメント・システムを採用。Apple® CarPlay™およびAndroid Auto™ にも対応しています。

走行装備

ドライバーの快適かつ安全な運転をサポートする先進安全技術を多数搭載。オプション装備として、サラウンド・ビュー・モニターも用意しています。

2種類のトリムオプション

新型「クアトロポルテ」には、エルメネジルド・ゼニア・エディションのインテリア・コーディネートが特徴の「グランルッソ」と、スポーツ性を強調した「グランスポーツ」の2種類のトリム・オプションを設定。どちらも専用の内外装が用意され、魅力を高めることができます。



グランルッソのインテリア



グランスポーツのインテリア

		GranLusso	GranSport
Quattroporte	12,060,000 円	13,340,000 円	—
Quattroporte S	14,060,000 円	15,340,000 円	15,340,000 円
Quattroporte SQ4	15,060,000 円	16,370,000 円	16,370,000 円
Quattroporte GTS	—	19,460,000 円	19,460,000 円

MOTOR SPORT



2017年は幸先の良いスタート。
バサースト12時間で
3位表彰台！

インターコンチネンタルGTチャレンジの開幕戦となるバサースト12時間が2月3日～5日、オーストラリアのマウントパノラマサーキットで開催され、ベントレー・チームMスポーツのコンチネンタルGT3（17号車）が3位表彰台を獲得しました。GT3メジャーレースの開幕戦で表彰台にのぼったことで、2017年は幸先の良いスタートを切りました。

早朝5時45分にスタートしたレースは、最初の2周で8号車のMaxime Souletが5位から3位に順位を上げて大きな見せ場を作りました。しかし、狭くタイトなコーナーが多いマウントパノラマサーキット上には50台以上がひしめいていたうえ、パンクによってコンクリートの壁に接触。8号車はピットストップを余儀なくされました。Souletに加えAndy SoucekとVince Avrilはこの難しいレース展開

を耐えに耐え、12位でレースを終えました。

一方、Guy Smith、Steven Kane、Oliver Jarvisの英国人トリオが駆る17号車は、22番手からのスタートながら2時間経過時点でトップ10を走行。その40分後には2位にまで順位を上げました。それからは3人ともペースを維持し、3位でフィニッシュしました。

ベントレーのモータースポーツ責任者であるブライアン・ガッシュは、「どちらのチームもよくやってくれました。特に17号車は素晴らしい仕事をしてくれました。2017年シーズンは素晴らしいスタートです」などとコメントしています。

ベントレー・チームMスポーツの次戦は、4月に行われるブランパンGTシリーズのミサノ(イタリア)です。いよいよ始まったモータースポーツの2017年シーズン。大きなご声援をお願いいたします！



クルー工場の見学でも最高の ベントレーらしい体験を

「ベントレー・エクスペリエンス」によるクルー工場の見学は、ベントレーの車がなぜ
唯一無二の存在なのかを知っていただく最良の手段です。

「ベントレー・エクスペリエンス」は、ベントレーの車が競争で優位に立つためにつぎ込まれているクラフトマンシップやノウハウ、テクノロジー、献身性などのショーケースとなっています。すでにベントレーにお乗りいただいているお客様や見込み客の方々、エンスージアストの皆様は工場の全てのプロセスをお見せすることで、ベントレー車1台に込められている知識や愛情、プライドを知っていただく機会になるのです。

昨年クルーを訪れたのは、ドミニク・ストラウド氏と奥様のキャリー・ストラウド氏のアメリカ人夫妻。2人とも大の車好きで、車歴は長く華々しいもの。現在はコンチネンタル GT3-R (ロットナンバー 63) とフライングスパーを所有しています。ベントレー・エクスペリエンスでクルー

を見学するため、はるばるカリフォルニアからやって来ました。

1日の始まりはCW1 ハウスでのお出迎えから。ベントレー・エクスペリエンスのヘッドであり、この日のホスト役を務めるカール・シャーリーに紹介されたほか、技術的な解説のために同行するナイジェル・ロフキンも合流しました。

Mullinerのサンプルやベントレーのカラーサンプル、CW1 ハウスに展示されている車両をご覧いただいた後、2人をフライングスパーで生産エリアまでお送りします。

本格的なツアーは、まずベントレーの初めてのエンジンや1920年代のル・マンの栄光といった会社の草創期の話から、コンチネンタルシリーズやペンティガといった最新の車を紹介するところからスタート。

エンジニアであるドミニク氏は、特に「Blower」のデザインと素材に興味を持ったようで、さまざまな視点から質問があり、ナイジェル・ロフキンが的確に回答しました。ベントレー・エクスペリエンスのホストは2年間にわたるトレーニングを受けているため、どんなに古い商品についても豊富な知識でお客様の質問にお答えすることができます。

ストラウド夫妻はあまり長い時間を割けないとのことでしたので、直接生産エリアにお連れしました。ベントレー・エクスペリエンスが特別である理由に、生産の全工程で働くベントレーのスタッフに、お客様が直接話をする機会を設けていることです。より詳細について理解を深めていただけるとともに、1台の車に込められた情熱を知っていただくことができるからです。



ツアーを終えて

ドミニク・ストラウド氏

以前、車の工場を見学したことはありますが、こんなに情報の多いツアーは初めてです。新しいことをたくさん学ぶことができました。生産ラインのスタッフに話を聞いたのが特に良かったですね。ベントレーを買った私の判断は正しかったのだと確信しました。それに、ほぼ全てが手作業だということを知ることができましたし、これこそベントレーが厳しい競争の中で成功を収めている理由だと理解できました。

キャリー・ストラウド氏

スタッフが誇りと情熱をもって車を組み立てている工程を見ることができて、まさにプライスレスだと感じました。さまざまな世代のスタッフが一つ屋根の下で家族のように働いている様子も印象的でした。また、ナイジェルはとても気さくなうえ知識が豊富で、楽しませる術を知るプロフェッショナルでした。このツアーをお勧めするかと聞かれれば、もちろんイエス。絶対にお勧めです。



なぜベントレー・エクスペリエンスが大切なのか？

ベントレー・エクスペリエンス ヘッド カール・シャーリー

お客様が職人たちに会う機会を提供することで、お客様のご要望に合致したビスポークを行っているということを見ていただくことになります。見ていただければ、すぐに理解していただき賞賛に変わります。ベントレー・エクスペリエンスも、すべてお客様のご要望に沿ったビスポークで対応します。ストラウド夫妻はあまり時間がとれない、ということでしたが、思い出深いベントレー・エクスペリエンスを提供できたと思っています。



出典：Retailer Marketing News Winter 2017

セールススタッフ向けの マリナートレーニングを実施

今号のP1で紹介したマリナーのイベントに先駆け、ベントレー モーターズ ジャパンは2月14日、東京マリオットホテルの会議室で「マリナートレーニング」を実施しました。当日は全国から13人のスタッフが参加。来日したマリナーのヘッド・オブ・コマーシャルのトレシー・クランプ氏と、ビスポーク・限定車プロダクトマネージャーのジェイミー・スミス氏が、マリナーの歴史や最近の特別仕様車について解説しました。さらに、マリナーの本拠地がクルー工場と同じ Pym's Laneにあること、マリナーの従業員が60人（うちクラフトマンが20

人程度）であること、最も長く働いている従業員がマリナーにいて勤続年数が42年にものぼること、年間200台前後のビスポーク車両を手掛け、限定車を含めるとマリナーでは年間400台程度を製作していること、といったお客様とのセールストークにも使えるような話題を提供してくれました。

Q&Aセッションやワークショップに移ると活発な議論が交わされ、日本のスタッフにとってマリナーをより身近に感じる機会となりました。また、クランプ氏とスミス氏にとっても、日本市場の特殊性を知ってもらう機会になったようです。

今年度、ベントレー モーターズ ジャパンでは、2種類の限定車を導入する予定です。仕様や台数、価格は未定ですが、本年の第3四半期～第4四半期での導入を目指していますので、詳細が決定し次第お知らせいたします。



Eラーニングに2つの日本語コース 必ず受講してください

アカデミーオンラインの中に、以下の2つの日本語コースが用意されました。リテーラーの皆様には、3月末までに受講を完了していただきますようお願いいたします。

- 1 The Mulsanne 17MY & EWB (日本語)
- 2 Flying Spur V8 S (日本語)

受講手順

- ① ベントレー HUB より「ACADEMY」の「EACADEMY」を選択
- ② 「マイラーニング」→「カタログ閲覧」を選択
- ③ 「プロダクト」から上記2コースを選択。
「今すぐ登録」をクリック
- ④ 「マイラーニング」→「マイ現在のコース」に選択したコースが現れるので「開始」をクリック

コンチネンタル SUPERSPORTS 発売記念 ブライトリング for ベントレーに新作が登場

ブライトリングはこのほど、コンチネンタル Supersports の発売を記念し、ブライトリング for ベントレーの新作となる「ベントレー SUPERSPORTS B55」を発売しました。世界限定500本で、日本での販売価格は98万5000円（消費税別）から。

ケースはチタン製で軽量ながら強靱。モータースポーツの世界を象徴するようなカーボンファイバー製の文字盤など、新型コンチネンタル Supersports を彷彿させる数多くのディテールが目をはきまします。

また、ブライトリング for ベントレーとして初めて電子式ムーブメントを装備。自社開発・製造のコネクテッド・クロノグラフであるキャリバー B55にカーレーシング専用機能を追加したキャリバー B55レーシングを搭載しています。このほか、ラリー計測、レース計測、レギュラリティ・ラリー計測、アラーム、デジタル式第2時間帯表示、カウントダウンタイマー、バックライト機能、充電式バッテリーといった機能が付いています。



ベントレーがトップ・エンプロイヤーに。 育成と採用プロセスが評価され 6年連続受賞

英国ベントレー モーターズはこのほど、トップ・エンプロイヤー・インスティテュートから「トップ・エンプロイヤー」に選出されました。育成と採用のプロセス、4000人のスタッフが献身的に仕事をしている状況などが高く評価され、6年連続での受賞となりました。

Marlies Rogait取締役（人事担当）は、「トップ・エンプロイヤーとして続けて評価されたのは経営サイドだけでなく、ここで働くスタッフ全てが評価されたのだと考えています。高度な技術を持つスタッフは私たちの誇りですし、これからも彼らがポテンシャルを発揮できる機会を整えたいと思います」とコメント。さらに、「工場で働く職人から役員室で仕事をする経営陣まで、ベントレーのビジネスに携わる誰もが、並々ならぬ情熱を持っています。この情熱こそが、ベントレーを世界一のラグジュアリーカーブランドとして成功に導いている要素なのです」などとも付け加えています。

ベントレーは2017年の研修生の採用活動を開始したばかりで、60ものポジションで積極的な採用活動を行う予定です。



ヘッドライトの明るさの単位

「ルーメン」、「カンデラ」、「ルクス」。いずれも光の明るさを表す単位で、クルマに限らず家庭用の照明器具やLED電球でもよく使われています。また、明るさではありませんが「ケルビン」という単位もよく目にします。今回の基礎知識では、この4つの単位の違いと、2015年9月から変更されている車検時のヘッドライト検査について理解を深めておきましょう。

LUMEN

ルーメン (略記号: lm)

ルーメンは、光源が発する単位時間あたりの光の総量を表す単位。日本語では「光束」と呼ばれ、バルブの性能(=明るさ)をダイレクトに示しています。

ハロゲンバルブを含むフィラメントを使用したいわゆる白熱電球では、消費電力であるW(ワット)で明るさを表してきました。しかし、新世代の光源として登場したキセノンとLEDは、白熱電球よりも圧倒的に明るく、かつ消費電力が少ないため、ワット表記では明るさの対比ができなくなりました。そこで、消費電力に関係なくバルブが放つ光量そのものを示すルーメンが使われることになりました。

そもそも家庭用LED電球の登場に応じて始まったルーメン表記。それに準じて自動車用のキセノンバルブとLEDバルブでも、ユーザーが判断しやすいようにルーメン表記が使われるようになりました。ちなみに60Wの白熱電球は約810ルーメン。キセノンバルブは3000ルーメン前後。ヘッドライト用の表面実装型LEDは、チップ1個で1500ルーメン前後となっています。

LUX

ルクス (略記号: lx)

ルクスは光に照らされた面の明るさのことで、日本語では「照度」と呼ばれます。

当然ですが、光源のルーメンが同じならば、照射面が近いほどルクスは高く(明るく)、遠いほど低く(暗く)なります。また、配光をコントロールするリフレクターやレンズカットの特性によってもルクスが変わるため、少なくとも市販のヘッドライトバルブにルクスの明るさ表記を使うことはできません。

光源と照射面の距離がほぼほぼ一定で、かつ照射面の明るさが重要になる家庭用のシーリングライトやデスクスタンドでは、明るさの表記にルクスが広く使われています。

CANDELA

カンデラ (略記号: cd)

カンデラは、光源からある方向に放たれた光の束の明るさを表す単位で、日本語では「光度」と呼ばれます。同じルーメン値ならば、光の束が細いほどカンデラ値は高く(明るく)、太いほど低く(暗く)なりますが、自動車用ヘッドライトの場合、リフレクターやレンズカットで照射範囲が決まっていますから、この限りではありません。

また、カンデラは「ルクス×距離の二乗」で求められる値なので、光の束の中の決められたポイントで測定する限り、光源からの距離に関係なくカンデラ値は一定になります。

車検で測定されるのはこのカンデラで、保安基準で1灯あたりハイビーム15,000カンデラ以上、ロービーム6,400カンデラ以上と定められています。

KELVIN

ケルビン (略記号: K)

リプレイスのヘッドライトバルブのパッケージなどでよく目にする「ケルビン」。これは光の色を表す尺度で、日本語では「色温度」と呼ばれます。正午の太陽光の色がおおよそ5000ケルビンで、それより数値が高くなるにつれて光が青みがかり、低くなるにつれて黄色くなります。ちなみに家庭用白熱電球の色温度は3000ケルビン前後となっています。

数字が大きくなって青みがかかるほど明るいようなイメージを抱きますが、ケルビンは基本的に明るさとは無関係。逆に色温度を変えるためにバルブのガラス面に着色するため、ルーメン数は落ちる傾向にあります。

2006年1月以降に製造、輸入された車両のヘッドライトは「白色」と決められており、青みがかった光が車検で落とされるケースが出ています。「白か? 青か?」に明確な数値的基準はなく、あくまでも検査官の現場判断。現在は「6500ケルビンまでならまあ大丈夫だろう」というあいまいな状況になっています



ケルビンは光の色を表す単位。明るさに関連性はありませんが、数値が高いほど人間の目に明るく見えるのも事実です。

車検のヘッドライト検査が変わりました

長らくハイビームで測定されてきた車検時のヘッドライト検査ですが、ロービームの使用頻度が圧倒的に高いという実情に合わせて、1998年9月にヘッドライトの設計をロービーム基準に改定。それに合わせて車検もロービーム測定に切り替わる予定でした。しかし整備工場のテスターの更新に時間がかかることから適用が延期。そのままズルズルと17年も引き伸ばされ、2015年9月1日からようやくロービームでの検査が始まりました。

ロービーム検査の場合、1灯あたり6,400カンデラ以上という明るさの規定に加えて、上方向への光のこぼれを抑えたカットオフラインが出ているか、いちばん明るいポイントが正しい位置にあるかといった要素も求められ、かなりシビアになりました。実際、検査方法の変更直後は光度不足やカットオフライン不良で車検を通らない車両が全国の車検場で続出し、かなりの混乱を招きました。



6,400カンデラ以上という光度も、低年式車やヘッドライトレンズが劣化した車両では、クリアが難しくなっています。

しかし、この変更によりロービームで対向車を幻惑するクルマが減るのは喜ばしいことです。